

岳連 ニュース

宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟

〒420-8076

静岡市駿河区八幡3-1-17

TEL (FAX) 054-288-7512

編集発行/総務委員会

令和1年11月18日発行

第31号

成年男子入賞ならず 茨城国体スポーツクライミング競技

第74回国民体育大会が、茨城県鉾田市の鉾田総合公園特設リード競技場、同体育館特設ボルダリング競技場で10月4日～6日の間開催され、本県からは成年男子チームが出場した。

今年からルールが改正されて、従来の山岳競技からスポーツクライミング競技に名称が変更され、一般の人に分かりやすい競技となった。

国体は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものである。

第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」は、翔べ 羽ばたけ その

【成年男子】
10月4～6日に茨城県



若宮選手(ボルダ)

鉾田市で、国民体育大会のスポーツクライミング競技が行われた。今年はルールの改定があり、ボルダリングでは競技時間が5分間に短くなり、リードでは予選がフラッシュ方式になり、さらに登る課題も近似的のグレードで異なるルートに変更された。

初日はボルダリングの予選に臨み、静岡県は2番目の競技順であった。課題のオブザベーションを終わらせてすぐに競技に入る。最初の課題はM1がルーフ、M2が緩傾斜である。M1はゾーンがルーフ越えた先にあり、線状の入ったボテを保持する課題だったが、このゾーン取りが難しい。若宮選手がゾーンにタッチまでするが保持まではできなかった。M2はスタートしてからボテに飛びつく課題である。向きが悪かったが保持できれば、完登まで。若宮、田邊、両選手とも完登。他の県も完登者が多い課題であった。次の二課題はM3がスラブ、M4が強傾斜の課題である。M3ではボテに立ち上がり、カチを

持つてボテを移動して、立ち上がってゴール取りという動き。若宮選手がゴールタッチまでいったが保持ができず惜しいところであった。M4では初手のピンチから、カチ付きのボテに飛びつくものである。カチの並びの中にゾーンがあるが、保持感の悪いカチで体を安定させるのが難しい。田邊選手がゾーンまで触ったが保持に至らなかった。結果は完登2、ゾーン3だったが、3完登、4ゾーンで決勝に進めていただけに悔しい内容である。2日目はリードの予選に臨む。左右どちらのルートもボテとカチが多く、見栄えのするような内容に感じた。田邊選手は中盤を過ぎたあたりでフォール、若宮選手も中盤を越えたあたりでフォールしてしまい、全体の中で26位と25位であった。傾斜がある中での左右への移動は体幹や持久力が要求されるものである。ボルダリングの疲れを残さないようにすることも大事である。

次回大会に向けて、成年男子以外にも出場

74国体静岡県選手団

区分	種別	氏名	所属
総監督		滝田 博之	
監督	成年男子	岩田 幸裕	浜松学芸高等学校(教)
トレーナー	成年男子	稲垣 裕介	コミュニティーホスピタル甲賀病院 (理学療法士)
選手	成年男子	若宮 京介	自営(県予選1位)
選手	成年男子	田邊 匡律	東日本旅客鉄道(株) (県予選1位)

きるように、競技力を上げていけたら良いと感じる。(成男監督岩田幸裕)

富士山村山道 須山道を歩く

スポンサー エス登山大会

本年度の県スポーツフェスティバル登山大会は、畏敬の念からか、古来富士山は信仰の対象とされ「登山」されて来た村山道、須山道を歩くコースで実施された。期日は、9月21日・22日、1泊2日と22日帰りコースであった。

Aコースは、21日参加者5名、同行スタッフ3名、サポート車1名で村山浅間神社を出発。スギ、ヒノキ植林の林の下の道を進む。札打場跡の大ケヤキを経て天照神社で大休憩。富士山麓山の村を通過した以降、古道らし



村山浅間神社



宝永山山頂

Bコースは、22日参加者22名、同行スタッフ6名、サポート車1名で薄曇りの須山浅間神社を出発。天気予報はあまりよくなかったが、須山村の

さの中宮八幡堂跡、石地藏4体地を通る。この頃から、参加者に疲労感が。それでも、横渡りで日沢右岸に移り古道らしい登山道を登り宝永周遊道に出た。ひと踏ん張りです。合目の小屋へ。皆さん元気に標高差2100mを登りきる。翌22日宝永山に登り、水ヶ塚コースから御殿庭の風景を楽しみ水ヶ塚の語源の取水場を覗いて水ヶ塚で大会を終了した。

中の石碑がある道を通り抜け、山道へ。水不足の水を求めて水道を引いた痕跡の道を進み、忠ちゃん牧場に着く。この名物、ソフトクリームをほおばる人、多数？馬返し(弁当場)を経て、池のあるフジバラ平、元の日本ランドゴルフ場のわきを回り込み、水ヶ塚の語源の取水場施設へと登り上がると、終了点の水ヶ塚駐車場に着いた。

トレーナーとして国体に帯同して

甲賀病院 稲垣 裕介

第74回国民体育大会へのトレーナー帯同について報告します。今年のいきいき茨城ゆめ国体では、競技名称が以前までの山岳競技からスポーツクライミングと変更になりました。

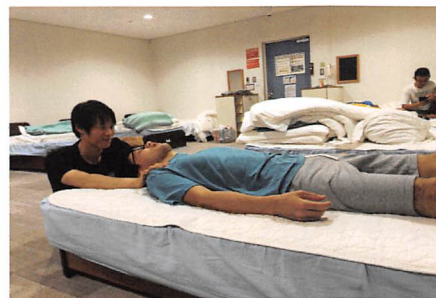
リード種目に関してはオンサイトトライではなくフラッシングによるトライとなっており各県ごと個々に競技順が異なる



須山浅間神社

山道。参加者一同、富士山の一面を楽しめた県スポーツフェスティバル登山大会ではなかったのは！ (工藤誠志)

10月3日～5日の3日間、成年男子の2名に帯同させて頂き、競技前のウォーミングアップ・競技後のアイシング・就寝前のマッサージ・ストレッチを行いました。幸い2名とも競技前・後で怪我もなく自身のパフォーマンスを



ともあり、選手はトライ回数もレスト時間も減ってしまいいざなれをみても完登数の少ないものとなっていました。リード・ボルダリング共に競技時間の短縮が実行されており選手にとってメリット・デメリットがあるように感じましたが、今後の国民体育大会でもルーの変更に伴う対応や準備が選手には必要になってくると感じました。トレーナーとしての関りは

発揮してくれたことと思っています。今年でトレーナーとしての帯同も3年目となり大会の流れや雰囲気、選手とのコミュニケーションと年を重ねるごとに良いものになってきています。逆に選手もトレーナーの必要性・使い方という部分で理解してきています。今大会では成年男子でトレーナー帯同している県は半数近くまで増えており、他競技に比べてトレーナー介入が少ない競技ではありましたが全体を通して選手サポート面に意識が向いているという点では喜ばしいことと思っています。事業成果としては、ボルダリング21位、リード26位と決勝通過ラインの8位は結果からみれば遠いように見えると思いますが、現場としては紙一重に感じている所も今大会ではありました。また来年以降の結果に繋がるような関わりというものを自分自身も追及していきたいと思っています。

燕岳山頂に歓声響く

人気の山小屋燕山荘泊、燕岳

令和元年度の、「秋山登山教室」が10月5・6日に「北アの人気者燕岳に登ろう」をテーマに山小屋泊りの自炊という計画で実施した。

参加者は9月25日、静岡市内で事前の座学で基礎的な知識を学び、本番に備えて準備をした。参加者は17名であった。

「登山教室」の目的は、「登山の初心者を単独でも安全に登山ができる『実力のある登山者』への育成だ」と考えるが、現状は多少違うようだ。参加者は、常連の方々が多く、すでに十分な実力をお持ちで初心者とはいえない。この現状を踏まえ登山教室の在り方を考えると、レベルアップが不可欠ではないかと思ひ、今回のコースを「東沢乗越經由の周回コース」としてみたが、多方面から「そのコースは初心者で大丈夫？」など開催を心配する声が寄せられた。そこで下見をした結果、

予想以上に登山道が荒れており、僕の出した結論は「周回コース」は見送りとなったわけである。

前夜、県内各地から合流地点の「道の駅・安曇野松川」に集結した。朝、登山口へと向かう途中「上部駐車場満車のため林道乗り入れ禁止」と告げられた。仕方なく中房温泉行きの乗り合いバスを待つことになる。すでにバス待ちの列は20名以上が並んでいたが、全員が無事に乗ることができ、登山口に到着した。(8:30)

登山者でごった返している登山口で、渡辺講師の指導の下、「ストレッチ体操」で入念に身体を伸ばす。さらに木村講師から各メンバー一人一人に心のこもった食糧と燃料の配給がなされ、メンバーの顔が一気に渋いものとなる。働かざる者食うべからず。大切に担ぎ上げてくださいよ。いよいよ出発である。

(8:30)「体力に自信のない方は、僕の後ろへ！」名前を呼ぶまでもなく、一人のメンバーが率先して前に出てきてくれる。これが常連客の多いツアーの気安いところである。

この後、下山までこの「ワン・ツー」ペアは不動の位置であった。今回の僕の最大の悩みは、休憩場所の選定である。この時期の燕岳合戦尾根のルート上の各ベンチは、まず満杯であろう。40〜50分歩いて、少しでも広いところがあれば躊躇なく、「休憩〇分」をメンバーに向かって宣言することとした。歩くほどに合戦尾根は予想通り登山者で満員、いたるところで渋滞発生である。これ



燕岳山頂

が適当な休憩となったようだ。そうこうしているうちに合戦小屋到着。(12:20)小屋の名物の「しるこ」をオーダーしている。いい顔している。

ここからは紅葉の登りとなる。途中、表銀座ルート尾根の向こうに槍の穂先が望めた。子槍もくつきり。絶景！思わず歓声が上がった。合戦沢ノ頭からは左右に広がる山並みを堪能しつつ、燕山荘到着。(13:55)。一息ついてから「ガスが湧く前」ということで全員で燕岳山頂を目指す。途中イルカ岩やメガネ岩を楽しみつつおよそ30分で山頂に着く。メンバー達の歓声が響いた。立山、剣岳の雄姿を堪能した後、砂礫と花崗岩の山頂を後にする。(15:00)

小屋に戻ってからは、まず各自寝床の確保。何とか17名がまとまってカーテンで仕切れるエリアを確保してもらった。その後、お待ちかねの夕食タイム。階下の自炊室はほかのパーティがいて全員が入れるスペースはない。途方に暮れていると、食

料や燃料を下げたメンバー達がヘリポートに向かい始めるではないか。ここなら、少し風通しはいいもののなかなかのベストポジ。各班に分かれて夕陽を見ながらの大盛り上がり。の宴となった。

そして翌朝(5:00)「自炊場でメンバー全員



燕山荘から槍ヶ岳を望む

めるようになる」と計画書のとおり表銀座ルートの散策を開始する。声掛けすると全員ではなかったが、多くの有志が集まった。さすがは表銀座、ルートは整備されており歩きやすかった。途中ライチョウの親子に遭遇し歓声が上がった。散策に参加した人への褒美だろうか。

予定通り小屋に戻る。名残惜しい中、いよいよ全員で下山となった。中房温泉登山口に全員怪我無く戻ってくることでできた。(11:15)参加メンバー全員に感謝、そして天候に感謝である。

松川村の「すずむし荘」で2日間の汗を流し、玄関横で、締め挨拶を僕から述べさせていただいた後、帰路につくことになった。安全にお帰り下さい。

今回の登山教室が、参加された皆様の今後の山に少しでも生かされますように、そして大変お疲れさまでした。

(加藤敏美)

美味！元氣百倍である。朝焼けが槍の穂先を染

高校クライミング競技大会 全国大会出場選手決まる

第20回静岡県高等学校クライミング競技大会が、第10回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の予選をかねて、11月4日(月)に、スクエアクライミングセンターにて行われた。5校16人(男子10、女子6)の生徒が参加し、最近では最も少ない数であったが、今年も決勝から高体連の理事長が観戦する中、熱戦が繰り広げられた。女子の予選は、4、5番壁のカンテを挟んで登るルー

第20回 静岡県高等学校クライミング競技大会11/4

種別	No.	氏名	学校名	予選	付記	決勝	付記	計時	順位
男子	3	赤池俊哉	浜松日体	37	+	31		3:30	1
	1	池田鋼史	東海大翔洋	TOP		28		2:38	2
	2	新村 悠	浜松日体	32	+	22		2:03	3
	5	森田滉介	浜松日体	27		18	+	1:49	4
	7	匂坂太紀	浜松日体	25		10		1:44	5
	6	柿本琉希	浜松日体	23		9		1:53	6
	4	辻村日向汰	浜松日体	19					
	10	小林暖武	浜松北	17	+				
	9	網野舜太	富士	17					
女子	8	篠原寛太	富士	17					
	12	横田はるな	浜松日体	25		TOP		3:26	1
	11	廣井真菜	市立沼津	26		38	+	4:11	2
	13	河島彩葉	浜松日体	27	+	31		4:00	3
	14	熊谷みちる	浜松日体	17		18	+	2:05	4
	15	浅井 楓	浜松日体	17		15		2:16	5
	16	伊藤奈々葉	浜松日体	15	+				

トで上部には外傾したホールドを処理するパワーを必要とするルートで完登はなく、ポイントとなるホールドを保持して手を伸ばした河島さんが1位通過(グレードは12a)。5名が決勝進出。男子予選は、7番壁をスタートしメイン壁に進むルートで池田君が唯一完登。赤池君が続き6名が決勝に進んだ(12b)。

女子決勝は、7番壁から、メイン壁右側から中央部に入るルート(12b)で、横田さんが力強い登りで終了点に達し優勝を果たした。廣井さんは終了点手前でフォールし2位となった。男子は、メイン壁中央から左上気味に進むルートで上部に厳しい張りぼての処理のあるルート(12d)で、予選1位の池田君の到達点を超えた赤池君が優勝

を飾った。

大会の結果、男女ともに3名(学校団体枠1名を含む)が全国大会に駒を進めた。今大会は昨年のような選手のミスもなく力を出せたのではないかとと思われる。会場を提供していたスクエアさん、セットを担当していただいた瀧浪さん、および運営に協力してくださった多くの方々に感謝申し上げます。

リードは男子20名、女子は11名で予選が行われた。男子予選は出だしからストレスのかかるルートで1位堀岡君から5位までそれぞれ1手差で順位がついた。6名が決勝進出。女子は中里さんが力強い登りで完登。5位までが決勝に進んだ。

全国大会出場者は以下の通り。
男子1位 赤池俊哉(浜松日体) 2位 池田鋼史(東海大翔洋)
「学校団体枠」新村 悠(浜松日体)
女子1位 横田はるな(浜松日体) 2位 廣井真菜(市立沼津)
「学校団体枠」河島彩葉(浜松日体)

(諸戸 明)

クライミングコンテスト9月大会開かれる

浜松スクエアクライミングセンター

令和元年度の1回目のクライミングコンテストは、残暑厳しい中、9月7日浜松スクエアで実施された。いつもは9月下

旬の大会であったが、ジュニアオリンピックカップが世界選手権の関係で9月となり、日程が重なったためである。

(諸戸 明)

令和元年度 静岡県クライミングコンテスト9月大会リザルト 9月7日

男子 リード	氏名	学校名	予選	付記	順位	決勝	付記	順位	女子 リード	氏名	学校名	予選	付記	順位	決勝	付記	順位
	鈴木音生	東海大翔洋中	28		2	33	+	1		鈴木結菜	清水第四中	26	+	3	32	+	1
	鈴木大翔	豊田中	27	+	3	30	+	2		中里溪夏	裾野西中	TOP		1	32		2
	堀岡隼人	東中	29		1	28	+	3		横田はるな	浜松日体高	28		2	29		3
	吉永利行	藤枝北	26		4	25	+	4		廣井真菜	沼津市立高	24		5	13		4
	高野龍生	東海大翔洋高	25	+	5	22		5		河島彩葉	浜松日体高	25		4	8	+	5
	池田鋼史	東海大翔洋高	21		6	16		6									

全日登山大会岐阜で開催される

乗鞍岳、西穂独標、御嶽等

第58回全日本登山大会岐阜大会が、9月28日、30日の間、岐阜県高山市、下呂市を会場として開催された。今年は岐阜県山岳連盟が主管して実施するため、静岡県から、前川副会長、木ノ内理事長が参加した。他に東海プロククの愛知、三重からも数人が参加していた。

28日は、高山市文化会館で開会式、記念講演会、山岳映画会が開催された。記念講演は、穂高岳山荘代表の今田恵氏が「穂高に生きる」穂高岳山荘三代目としてを演題に講演した。

29日は登山行動の日で、前川副会長は乗鞍岳、木ノ内理事長は西穂独標コースに分かれて行動した。独標コースはロープウェイの時間の制限や独標登りの混雑の整理などで時間的に多少窮屈な感じがした。天気予報はあまり

良くなかったが、何とか雨に合わず全コース共予定通りの登山ができた。その後宿舎で閉会式を行う。日山協水島常務理事の講評では、今大会は一般の人の参加を認めたこと、高体連登山部が参加したこと、参加者162人に対し、スタッフが約130人



ガスに包まれる独標

と多く集まったこと等、岐阜大会の特徴を話された。聖杖引継ぎの後、次期大会開催の千葉岳連開口会長から概要の説明があり、期日は21年2月20日、22日、房総の山で開催すると公表した。

30日は高山市にある飛騨山岳資料館を前岐阜岳

第2回南アルプス写真展

山の日記念行事

山の日記念行事として実施された、第2回南アルプス写真展を初日5日に見学してきました。

場所は静岡市役所にある「静岡市民ギャラリー」第2展示室で期間は11月5日、10日まで展示時間は午前10時、17時、最終

展示ブースは3区画に、整然と展示されていた。展示されている写真の点数は、県内4団体の「日本山岳会静岡支部」「勤労者山岳連盟」「静岡市山岳連盟」「県山岳

連会長の木下さんの案内で見学した。日本で2番目に古い歴史を持つ飛騨山岳会の会員が、昭和時代に使っていた登山道具、スキー用具などが展示してあり、北アの自然や登山史に関する資料も見ることができた。

(木ノ内 高嘉)

今回も市民ギャラリーでは、写真、絵画など全6ヶ所の展示場で行っている団体が展示を行っており、隣のブースでは「全日本山岳写真協会・静岡展」が展示しており、プロを含めた格調高い山岳写真が展示され、見学者がかなり多いように感じられた。

・展示作品の事例、会場の様子など写真を参考にしてください。

(坂田 昇)



山岳部紹介

JR東海浜松工場の山岳部は、昭和23年に旧国鉄の企業内クラブとして発足して、県西部の登山愛好者として、当時から自由で活発な活動を行って、昨年、創部70周年を迎えました。

現在山岳部のメンバーは約20名ほどで、20代から60代と幅広い年代層で活動しています。

山岳部の山行には、クラブの登山大会があり、4月の秋葉山

JR東海浜松工場山岳部

部長 相川雄二

で楽しく山行をしてきました。

山岳部の定例山行として、「社員家族富士登山」があり、社員家族と一緒に富士登山(富

ンプ場でお酒を飲みながら、新人社員と親睦を深め部員勧誘を行っています。

また、県西部の山岳部として、

南ア夏山相談所開設

畑薙臨時駐車場

今年の夏山は、天候が不順で特

南アルプスの夏山相談所が、7月13日から9月1日までの51日間、畑臨時薙駐車場で開設された。

県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣し井川山岳会の会員と静岡市岳連の会員と共に、登山者の相談、指導及び、天候や登山道の状態などの情報提供を行い、安全登山の一翼を担った。この間、県岳連からは延べ41名の指導員を派遣した。

の特有の事故が多発している。

なお、浜松市の63才の男性が間ノ岳に登りに行ったが、帰宅予定を過ぎても戻らないと家族から連絡があり、救助隊が捜索した結果遺体で発見された。

(滝田博之)



9月常任理事会

日時 9月2日(月) 18時30分

場所 静岡労政会館会議室

出席者 滝田博之、清水雄三、前川朝夫、木ノ内高嘉、豊田稔、増田浩二、赤堀正、市川隆夫、鈴木修、坂田昇、内海廣治、加藤敏美、諸戸明、兼子猛 14名

会長挨拶

前期事業の夏山登山教

室も無事終え、後期事業に向け引き続き尽力願います。

県岳連法人化について要綱・定款(案)の話し合いを8月19日三役で行った。

議題

①国体委員会(諸戸)

国体東海ブロック大会が7月27、28日開催、少年男子、女子、成年女子健闘するも本大会出場権得られず。

第63回インターハイが宮崎県高千穂町において開

催され女子は富士高校が2度目の優勝、男子は富士高校が9位の成績を収める。

②指導委員会(加藤)

夏山登山教室が参加者12名で7月20、21日に北岳に登る。途中雨に合いながらも早めに肩ノ小屋着、翌日、北岳を登り下山時、参加者から要望があったロープワークを御池小屋の下で実施した。

③東海正副会長・理事長会議(木ノ内)

7月27日実施、滝田、前

川、木ノ内が出席

今年の静岡の主要テーマは、岳連の法人化と名称変更であると報告した。

④秋山登山教室(加藤)

10月5、6日で燕岳登山を募集、現在8名の参加希望あり、下見した結果復路コースの安全面に問題があり合戦尾根の往復で実施していきたい。

⑤茨城国体(木ノ内)

期日 10月4日～6日

会場 鉾田市東間

総監督、滝田博之、成年男子監督岩田幸裕、選手

若宮京介、田邊匡律の2名、トレーナー、稲垣裕介の5名の選手団派遣の承認を得る。

今年度から国体山岳競技の呼称がスポーツクライミング競技となった。

⑥中級山岳セルフレスキュー

研修会について

期日 10月19、20日

場所 西湖 観岳園付近

講師 堤 信夫

オートブロックシステム、ピックアップ法、簡易タ

ンカーづくり等

⑦第11回高校クライミング

競技会(諸戸)

11月4日 スクエアクラ

イミングセンターで実施。

⑧第13回ジュニアボルダ

リング競技会

令和2年2月11日 プラ

ネットクライミングジム

静岡店で実施。

⑨第21回竜爪山岳競技会

を12月8日に例年通りの内容で実施。役員が必要につき協力願います。

⑩岳連カレンダー

280部作成 1部千五百円 販売にご協力をお願い

します

⑪県岳連の法人化につい

て(滝田)

一般社団法人へ移行する

に伴い、定款(案)を作

成し、各章・各規程(案)の説明を行う。

第1章 総則

第2章 目的及び事業

第3章 会員

第4章 社員総会

第5章 役員等

第6章 相談役

第7章 理事会

第8章 委員会

第9章 事務局

第10章 資産及び会計

第11章 定款の変更・

解散

第12章 公告の方法

第13章 補則

第14章 附則

会費規程(案)

組織図(案)

委員会設置規程(案)

旅費交通費規程(案)

今後は、関係部署からの

チェック、アドバイスを

うけ皆さんと相談しながら

法人化への作業を進めて

いきたいと思っています。

⑫その他

第2回 南アルプス写真

展を11月5日～10日静岡

市民ギャラリー展示室で

開催

(兼子 猛)